

【総会報告】

日本村落研究学会1998年度総会は、1998年10月24日（土曜日）17時30分より、埼玉県比企郡嵐山町の国立婦人教育会館（ヌエック）で開催された。はじめに、総会議長に佐藤直由会員を選出し、続いて細谷昂会長から挨拶があった。

1 報告

1. 1998年度事業報告

1) 理事会の開催

酒井事務局長から、1998年度の理事会開催状況が報告された。本年度の理事会開催は以下の通りである。

- 第一回 理事会 1997年10月25日 グリーンピア津南
- 第二回 理事会 1997年12月12日 慶應義塾大学
- 第三回 理事会 1998年 4月18日 慶應義塾大学
- 第四回 理事会 1998年 9月12日 慶應義塾大学
- 第五回 理事会 1998年10月24日 国立婦人教育会館

1) 研究通信の発刊

酒井事務局長から、本年度の研究通信の発行状況が報告された。本年度は以下のように4回発刊された。

- 第190号 1998年1月18日
- 第191号 1998年5月18日
- 第192号 1998年9月25日
- 第193号 1998年9月28日（大会特集号）

1) 会員名簿の発行

酒井事務局長から、1998年度の会員名簿を発刊したことについて報告があり、前回に引き続き、会員の研究領域などを掲載したほか、今回はFAX番号やE-mailアドレスも掲載したとの報告があった。

1) 会員の動向と確定について

酒井事務局長より、今年度は新入会員22名、退会者6名、逝去者2名いたが、さらに会則第6条に基づく退会者が28名いた。従って会員数は昨年度大会時の412名から、14名減の398名になっていると報告された。（資料(1)会員動向表参照）

2 各委員会報告

1) 研究委員会

北原 淳委員長から、1999年度のテーマセッションについては「20世紀日本農村の社会システム」（座長 池上甲一会員）に決定しているが、2000年度のテーマについては「農政の再検討（仮）」を基本テーマとし、座長を大川健嗣会員にお願いすることにしたとの報告があった。引き続き地区研究会の開催のついて、各地区研究担当委員より報告があった。（詳細は研究通信第192号参照）

大野 晃会員からは、北海道地区研究会の実施状況が報告された。

相川良彦会員からは、関東地区研究会の実施状況が報告された。

黒柳晴夫会員からは、西日本地区研究会の実施状況が報告された。

2) 編集委員会

① 小林一穂年報編集長から、年報第34号が予定通り発刊されたことが報告された。

① 大内雅利ジャーナル編集長より、3月に8号、9月に9号が発刊されたことと、今年度は投稿原稿を常時受け付ける体制を整えるなど、編集業務の改善を図ったと報告された。

3) 国際交流委員会

鳥越皓之委員長より、国際農村社会学会（IRSA）世界会議招致に関する検討を理事会から諮問され、国際交流委員会は検討結果をまとめて9月12日に理事会に答申した。理事会はそれを検討した結果を受けて、今日の総会に提案されることになっている。

4) 学会奨励賞選考委員会

我孫子 麟委員長から、今年度の学会奨励賞選考経過が説明され、今年度は選考対象4編の中から、秋津元輝会員の『農業生活とネットワーク 一つきあいの視点から』1998.1お茶の水書房が、研究奨励賞の授与対象と決定したことが報告された。

3. 98年度会計報告

事務局会計担当の内田会員から、98年度決算報告と今年度の学会財政の運用に関する諸問題が報告された後、会計監査の山下会員から会計監査の結果、適正な運用がなされているとの報告がなされた。（資料(3)決算書参照）

4 その他

北原 淳会員から、99年1月にタイで開催されるアジア農村社会学会について、その後の情報が紹介され、既に決まっている3名の報告者以外に、報告ア社希望があれば、11月1日までに報告のアイデアを提出し、12月15日までに報告論文を提出することが必要であると紹介された。

1. 議 題

1. 1999年度事業計画、予算案について

酒井事務局長より、1999年度も従来の研究活動を継承していく予定であり、それに基づく予算を編成したと説明があった。続いて事務局会計担当の内田 司会員より学会財政の厳しい現状から、1999年度はかなりの緊縮予算とならざるを得ないとの説明があった。提案された予算案については承認された。(資料(4)予算書参照)

2. 国際農村社会学会 (IRSA) 世界会議の招致について

細谷会長より、2004年のIRSA世界大会招致については、かねてより国際交流委員会で検討していただいたが、9月に理事会に検討結果が答申された。

それを受けて理事会で検討した結果、委員会が指摘している開催に必要な条件の具体的な検討をすすめることが必要と判断し、検討に入ることを提案したい。

その検討の結果を受けて、IRSA世界大会を招致するか否かの判断を、来年の大会でお願いしたいと考えている。会長の提案は承認された。(資料(5)会長提案文書参照)

3. 1999年度 学会事務局について

細谷会長より、1999年度の学会事務局は杉岡直人会員(北星学園大学)を事務局長とする北海道の会員(内田 司、小内純子、酒井恵真)で構成していただきたいと提案があり、了承された。

4. 1999年度 大会開催地・大会事務局について

細谷会長より、1999年度の大会開催地は東洋大学で行い、大会事務局も東洋大学でお引き受けいただきたいと提案があり、了承された。

次期大会事務局を代表して丹野朝栄会員から、大会を引き受けるに当たっての挨拶があった。

5. 1999年度大会、2000年度大会テーマセッションについて

北原研究委員会委員長より、1999年度テーマセッションについては「20世紀日本農村の社会システム」(座長 池上甲一会員)に決定しているが、2000年度については「農政の再検討(仮)」(座長 大川健嗣会員)としたいと提案があり、了承された。